

自己評価結果公表シート(令和2年度)

宮山台幼稚園

1. 本園の教育目標

「元気な子」・「考える子」・「思いやりのある子」の三原則を達成するための、一人ひとりに応じたきめ細やかな指導

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

園の教育及び教育方針、教育目標のもと、評価項目に従って自己点検・自己評価を実施することにより、職員自らが客観的に自園を見る目を養い、社会情勢に応じた施設の改善、教育及び保育内容の改善に向けた取り組みを目指します。

3. 評価項目の達成及び取組状況

| 評価項目 | 取組状況 |
|-----------------------------|---|
| ① 教育計画・年間カリキュラムの完成と計画的な保育実践 | 保育の質の維持・向上を図り、各学年の教育計画・年間カリキュラムを完成させましたが、緊急事態宣言もあり4・5月の教職員の在宅勤務、年間を通しての感染防止対策に追われ、検証できていませんが、カリキュラムを保育に反映できるように、毎年内容を見直していきます。 |
| ② 保育環境 | 新型コロナウイルス感染防止を徹底することを一番に考えて園生活全般を見直す必要がありました。ソーシャルディスタンスを保つために行動の制限を余儀なくされる状況で、理想的な遊びの環境や他クラス・異年齢との交流の場を作ることが困難でしたが、どうしたらこれまで同様の教育的効果が得られるか、様々な場面において職員間で話し合いました。 |
| ③ 保育者としての資質や能力・職員間の相互理解 | 職員間で常にこども一人ひとりの姿を情報交換し、非常勤職員も園児の様子を理解した上で関わるよう努めています。今年度は、コロナ禍のため、対面での研修は非常に少なかったのですが、WEB研修への変更により、参加できる教員が圧倒的に増えました。これを好機ととらえ今後も積極的に取り組んでいきたいと考えています。 |
| ④ 保護者との関わり | コロナ禍のため行政等の通知に基づき、保護者の方に参加していただく行事、保護者参観・体操参観・誕生会などが実施できず、園でのお子さまの様子を見ていただく機会が減少しました。今後も大人数が一度に集まることは、困難であろうことから、実施方法の検討が必要となります。また、キンダーカウンセリングは、今年度も需要が多く、専門家に相談することで保護者の不安な気持ちが軽減されたように思います。コロナ禍のため、電話対応も可能としました。 |
| ⑤ 感染症対策 | 新型コロナウイルス感染防止のための具体策を考えてそのマニュアルを提案し、教職員間で確認・決定した後、プリント配布やメール配信で保護者に周知しました。コロナ禍での衛生面・安全面について、アルコールと次亜塩素酸ナトリウム希釈液を適宜使い分け、教室・トイレ・共有部分・通園バス・おもちゃ等の消毒に努めました。今後も最新の情報を収集し、更新していき |

| | |
|----------------|---|
| | たいと思います。徹底できない部分は繰り返し投げかけ、実行できるように努めました。 |
| ⑥ 安全対策と施設整備の推進 | コロナ禍のため、消防訓練・防犯訓練は自園での実施となりましたが、DVDや紙芝居などを活用し、子どもたちが理解しやすいように考えました。地震・火事の園児の避難訓練は、回数を増やし実施しました。 |
| ⑦ 情報発信 | コロナ禍での園運営において、ホームページやモバイルメールを有効活用することで、在園児保護者にこの状況下での教育活動を理解していただく情報源の一つとなるように考えて、様々な内容で情報発信しました。特に4・5月の臨時休園の際は、家庭で保育する材料を送付し、動画を配信しました。一方向だけではなく双方向での情報交換ができるかは、今後の課題です。 |

4. 具体的な目標や計画の総合的な評価結果

- ・新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い、教職員をはじめ保護者や園児が新しい生活様式の実践に努めつつ、日常の遊びや生活を取り巻く環境や園行事の有無について、幼児期にふさわしい教育環境を用意することを目標として、実行しました。その結果、感染防止の徹底を図りながらこれまでの教育活動をできる範囲で行うことができました。
- ・長引く緊急事態宣言や継続的な感染者数拡大の影響を受け、学年間と教員や学年リーダーの少人数での打ち合わせは密に行ったものの、教員全員での話し合いの場をつくるのが難しい環境となり、その点については、今後の課題です。
- ・園舎建物の環境的課題を見つけ、改善できるのであれば速やかに実行し、改善が難しい箇所については他の対策を考え、常に安全安心できる教育環境を目指しました。
- ・キンダーカウンセリングの実施により、保護者にとって継続的な不安解消の場として定着している点は、大変良いと思います。

5. 今後取り組むべき課題

- ・コロナ禍での園行事のあり方について検討するとともに、子どもたちがいつもと同じように安心して過ごせる環境を守りたいと思います。
- ・自然災害・感染等、危機管理意識の向上を図り、危機管理マニュアルで園の安全性を教職員が確かめ合い、必要があれば見直していきます。

6. 学校関係者の評価

- ・今まで経験したことのない状況への対応に苦慮されたことと思いますが、そのような中であって、可能な限りの保育・運営がなされていると認められます。
- ・新型コロナウイルス感染拡大のニュースが多く聞かれるようになり、もしものことを考えると不安も大きいです。感染対策のマニュアル作成や防災や危機管理、ヒヤリハットなど、教職員全体が意識して、日頃の取り組みを大事にしてほしいと思います。

7. 財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められています。